

一人の警察官の勇氣に敬意を

小西巡查部長 語り継がれる思い



湯浅警察署鳥屋城分署 ■ 巡查部長(当時巡查)
小西榮次郎(33歳)

殉職年月日 ■ 大正11年8月16日

概要 ■ 同日、有田郡八幡村において強盗犯人
逮捕の際、ピストルで撃たれ



■ 巡查部長
要之助(32歳)

3年5月22日
山警察署において執務中、
れる。

「こそ泥はいても、凶悪犯罪の
ほとんど起こらない有田の山奥に
一大パニックが起こった」(清水
町誌)。

今から96年前、一人の警察官が
命を落としました。その警察官の
名は、小西榮次郎^{えいじろう}。まだ若く、今
後を期待されていたであろう彼
は、どんな思いで職務を全うした
のでしょうか。

「ピストル強盗事件」

大正11(1922)年7月31日
22時ごろ、海草郡宮前村(現在の
和歌山市)で、2人の青年がピス
トルを持った男に「金を出せ」と

脅された。しかし2人は現金を
持っていなかった。男はその
まま立ち去った。その後、22時30
分ごろ、今度は海草郡紀三井寺村
(現在の和歌山市)の店にその男
は強盗として立ち入った。店の主
人とその妻は、男の隙を見て表に
飛び出したが、その背後には銃声
が響いた。

第2の犯行があつて約30分後、
私服の警察官が男を呼び止め、職
務質問をした。男は山本清吉^{せいきち}と名
乗った。警察官は衣服の上から身
体検査をしたが、手に持ったバス
ケットの中身は調べなかった。

その後、和歌山警察署は通報を
受けて捜査をしたが、山本は居住